

インターバンクの声（2016 年 6 月 22 日）

英国の欧州連合 (EU) 離脱懸念が和らいだとして、ポンドやユーロが買戻し傾向になったのも束の間、最新の英世論調査で残留支持と離脱支持との差が僅かになったことが伝わり、昨夜は両通貨共に再び大きく売り込まれた。ドラギ欧州中央銀行 (ECB) 総裁が欧州議会で、英国の国民投票が市場の不透明感を助長していると述べたことや、イエレン米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長が議会証言で、英国が EU 離脱を決めた場合の著しい影響を懸念すると発言したことも多少響いていたようだ。イエレン議長の議会証言では、7 月の利上げの可能性に言及するかどうかが目されたが、やはり労働市場の減速が一時的なものかどうかの確認を含め、経済データを慎重に注視していくとの従来からの言い回しを繰り返すだけだった。とにかく足許の注目は英国の国民投票一色で、今までに市場が経験したことのない先行きが全く読めないイベントでもあり、市場は投票直前まで振り回されることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。